

平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

- [ 分 類 ] 普及技術  
 [ 成果名 ] 水稻のイネドロオイムシ防除にフェルテラ箱粒剤が有効である  
 [ 要 約 ] 水稻のイネドロオイムシ防除にフェルテラ箱粒剤を移植当日に育苗箱あたり 50 g 散布する。  
 [ 担 当 ] 農業試験場環境部・原村試験地  
 [ 部 会 ] 病虫部会

1 背景・ねらい

イネドロオイムシは県内では中山間地の水田を中心に問題となる害虫である。冷涼多湿環境を好み、梅雨期が長びくと出穂期近くまで発生が続き被害が拡大する。平成 20 年および 21 年に本種に対する防除効果試験を実施し、平成 22 年 1 月に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

- ( 1 ) 水稻のイネドロオイムシ防除にフェルテラ箱粒剤を移植当日に育苗箱あたり 50 g 散布する。

農薬登録内容

フェルテラ箱粒剤

[ 一般名及び成分含量 ] クロラントラニリプロール0.75%

[ 人畜毒性 ] 普通物 [ 魚毒性 ] B 類 ( 成分 )

[ 対象作物に対する適用登録状況 ( 平成22年 2 月 3 日 J P P - N E T 確認 ) ]

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ	育苗箱 ( 30 × 60 × 3 c m、使用土壌約 5 リットル ) 1 箱あたり 50 g	移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、使用時期が適用登録と異なる。

3 利用上の留意点

- ( 1 ) クロラントラニリプロールはジアミド系で、新規作用性を有し対象害虫は強い筋萎縮症状を示して死亡する。根からの吸収移行性を有し、経口、経皮活性ともに高く、効果発現は速い。  
 ( 2 ) 蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。  
 ( 3 ) 水産動物 ( 甲殻類 ) に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池などに飛散、流入しないように注意する。

4 対象範囲 県下全域

5 具体的データ

- ( 1 ) 平成 20 年に農事試験場原村試験地でブイゲットフェルテラ粒剤を用いてイネドロオイムシに対する防除効果および薬害の有無を試験した結果、対照の Dr . オリゼプリンス粒剤と同等の高い効果が認められた。薬害は認められなかった ( 表 1 ) 。

表1 イネドロオイムシに対する効果（平成20年 農事試験場原村試験地）

供試薬剤	処理方法	移植22日後（6月19日）			移植29日後（6月26日）		
		成虫	卵塊	幼虫+繭	成虫	卵塊	幼虫+繭
ブイゲットフェルテラ粒剤	移植3日前 50g/箱	0.3	0.0	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0 (0)
Dr.オリゼプリンス粒剤	移植当日 50g/箱	0.0	0.0	0.0 (0)	0.3	0.0	0.0 (0)
無処理		1.0	1.3	1.0 (100)	0.0	5.3	19.3 (100)

  

供試薬剤	処理方法	移植35日後（7月2日）			移植42日後（7月9日）			薬害
		成虫	卵塊	幼虫+繭	成虫	卵塊	幼虫+繭	
ブイゲットフェルテラ粒剤	移植3日前 50g/箱	0.3	0.0	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0 (0)	無
Dr.オリゼプリンス粒剤	移植当日 50g/箱	0.0	0.0	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0 (0)	無
無処理		0.0	3.0	33.3 (100)	0.3	0.0	22.3 (100)	

表の数値は60株あたりの平均虫数、( )は対無処理比。  
 試験場所：諏訪郡原村向坂 イネドロオイムシの発生状況：少発生  
 品種：「ゆめしなの」 播種月日：4月17日 移植月日：5月28日（中苗機械移植）  
 区制・面積：1区201.6㎡（28m×7.2m） 1区あたり3調査区を設け連制に代えた。  
 移植22、29、35、42日後に、調査区中央付近60株の成虫、卵塊、幼虫、繭数を数えた。  
 試験にはブイゲットフェルテラ粒剤（チアジニル12%、クロラントラニリプロール0.75%）を用いた。

（2）平成21年に上高井郡高山村の水田でフジワフェルテラ粒剤を用いて試験を実施した。適用登録前の試験であったため緑化期処理で実施したが、残効性も含め対照薬剤と同等の高い効果が認められた。また、薬害も認められなかった（表2）。

表2 イネドロオイムシに対する効果（平成21年 農業試験場）

供試薬剤	処理方法	移植14日後（6月5日）			移植21日後（6月12日）			移植28日後（6月19日）		
		成虫	卵塊	幼虫+繭	成虫	卵塊	幼虫+繭	成虫	卵塊	幼虫+繭
フジワフェルテラ粒剤	緑化期 50g/箱	1.3	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	6.0	6.0	0.0 (0)
ブイゲットアドマイヤー スピノ箱粒剤	移植当日 50g/箱	1.3	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	7.3	1.0	0.0 (0)
無処理		7.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	9.3	17.0	2.3 (100)

  

供試薬剤	処理方法	移植35日後（6月26日）			移植48日後（7月9日）			食害度 （移植48日後）	薬害
		成虫	卵塊	幼虫+繭	成虫	卵塊	幼虫+繭		
フジワフェルテラ粒剤	緑化期 50g/箱	0.7	1.7	0.0 (0)	1.7	1.0	0.0 (0)	0.7 (1)	無
ブイゲットアドマイヤー スピノ箱粒剤	移植当日 50g/箱	5.7	0.7	0.0 (0)	0.0	0.0	0.0 (0)	1.0 (2)	無
無処理		3.0	12.0	41.0 (100)	7.7	1.0	91.0 (100)	49.0 (100)	

表の数値は50株あたり虫数の3連制平均、( )は対無処理比。  
 試験場所：上高井郡高山村 イネドロオイムシの発生状況：中発生  
 品種：「あきたこまち」 播種月日：4月14日 移植月日：5月22日（中苗機械移植） 出穂期：8月14日  
 区制・面積：1区49㎡（7m×7m） 3連制  
 移植14、21、28、35、48日後に、試験区中央付近50株の成虫、卵塊、幼虫、繭数を数えた。また、移植48日後に1区50株の食害程度を調査し、食害度を求めた。  
 食害程度の基準  
 A：食害葉割合が91%以上の株数、B：同61～90%、C：同31～60%、D：同1～30%、E：同1%未満  
 食害度=（4A+3B+2C+D）/（4×調査株数）×100  
 試験にはフジワフェルテラ粒剤（イソプロチオラン2.0%、クロラントラニリプロール0.75%）を用いた。  
 対照薬剤は有効成分イミダクロプリド2.0%（アドマイヤー）が普及済みである。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成20、21年度（2008、2009年度）、民間受託